

20070

緊急症例における OFDI ガイドPCI と IVUS ガイドPCI の検討

¹国立病院機構 北海道医療センター、²国立病院機構 北海道医療センター

梁川 和也¹、岩館 直¹、小嶋 睦明¹、阿部 渉¹、明上 卓也²、藤田 雅章²、竹中 孝²

【はじめに】 当院では2014年度より OFDI を導入し2015年より緊急症例でも用いている。今回、緊急PCI を行った症例で OFDI、IVUS のデバイスの違いで、両者に造影剤使用量の差があるか比較検討したので報告する。【対象・方法】 当院において2014年1月～2016年4月までに緊急PCI を行った ACS 患者111例のうち、造影剤量が確認できなかった6例と PCI 途中で CABG に移行した1例を除外した104例を OFDI 使用群と IVUS 使用群に分け造影剤量について後ろ向きに比較検討した。さらに術後72時間以内に Cr 値が0.5mg/dL 以上または25%以上増加したものを CIN とし、術後3日間の採血結果が無い12例、死亡のため採血結果の無い3例、維持透析患者、血液浄化を施行した6例を除外した83例の OFDI 使用群、IVUS 使用群での CIN 発症頻度を算出した。【結果】 造影剤量(mL)は両群で有意差はなかった(OFDI 使用群:中央値173、vsIVUS 使用群:中央値156、p 値0.1838 > 0.05)。CIN の発症例は OFDI 群37例中3例(8.1%)、IVUS 群で46例中7例(15.2%)であった。多枝標的病変の場合や推算糸球体濾過量30台は IVUS 使用が多かった。【考察】 両群で造影剤量に差が出なかった要因としては、当院の OFDI では造影剤削減のために造影剤と低分子デキストラン(以下 LMWD)を2:1にしていることも関与していると推察した。LMWD 自体にも腎不全を招く副作用も報告されており、多枝病変だと撮影回数が多く LMWD により腎障害が生じた可能性もあり、今後の検討課題にしたい。【結語】 OFDI 使用群と IVUS 使用群では緊急PCI の使用において造影剤量に差は見られなかった。